

# 樹医からのアドバイス (Vol.30)

～紅葉は心を和やかにする～

出雲市樹医センター

樹医 永瀬 明

10月も後半になると紅葉の季節を迎え、野山は次第に黄色く色づき、やがて燃えるように赤くなってきます。四季を一言で表すと、春が「希望」、夏の「躍動」、秋は「坦懐」の時節とすることができます

<sup>もみじ</sup>紅葉を楽しむのは奈良時代の頃からと言われ、平安時代になると庭園や寺院を建てる時にはモミジを中心に植えて、その美しさを楽しむようになったとのこと。

## 【モミジとカエデの違い】

植物分類学上では区別がなく、カエデ科カエデ属で同じ仲間です。愛好家の間では、葉の切れ込み数や切れ込み具合が深いものを「モミジ」、そうでないものを「カエデ」と呼ばれ区別されています。

## 【剪定作業】

休眠期に行う作業の中に剪定作業があります。モミジの剪定で留意することは、葉が落ちるのを待ってから、樹冠内の「細い枝、枯れ枝、平行枝、からみ枝、徒長枝」など不定な枝を取り除いて、モミジが醸し出す自然樹形にすることが剪定の妙趣であります。

## 【冬期に向けての対策】

今後気温が下がるにつれて、病原菌や害虫の活動は弱まり、被害も少なくなります。病虫害は越冬準備に入りますので、剪定、捕殺、薬剤散布を組み合わせると効果があります。

※剪定で効果がある害虫はカイガラムシ、アブラムシ、イラガなど。カミキリムシは穿孔部に薬剤を注入して防除します。



モミジ色づく秋の一コマ